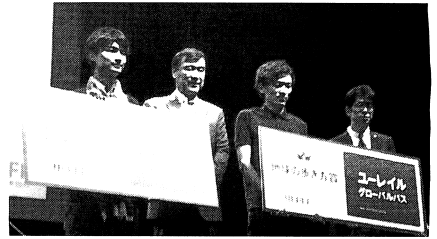


[UFPFF]

国際平和映像祭を開催

映像制作を通じて平和を考える

UFPFF授賞式に臨んだS.A.L.のメンバー



第1回国際平和映像祭が、「セブテンパーイレブン」から10年目にあたる今年9月11日より国際平和の日（ピースデー）の9月21日まで、11日間にわたり開催された。これは、世界の共通言語である映像の力によって、世界平和と持続可能な社会の実現を呼びかけるため、学生を対象に開かれた映像コンペティション。事前に2～5分間の映像作品を公募し、応募があった国内外の31作品のうちファイナリストに選出された13作品が、9月11日にヨコハマ創造都市センターで開かれた

オープニングイベントに参加した。

また、映像祭最終日の9月21日には、横浜BLITZでファイナリスト13作品が上映され、それぞれの作品について審査員との質疑応答が設けられた。最優秀作品に選ばれたのは、慶應大学の学生団体S.A.L.がカンボジアの地雷原を舞台に制作した短編のドキュメンタリー映画「CROSS ROAD」。30年前の内戦で埋められた地雷を、元ポルポト軍兵士や元政府軍兵士、その娘や息子たちが今日、敵も味方もなく手を取り、笑い合いながら除去作業にあたる様子を

描いた。

S.A.L.はさらに、来場者からの一般投票でも最も多くの得票数を獲得し、「地球の歩き方賞」もダブル受賞。今後、UFPFFの映像ワークショップを受けた後、(株)エイチ・アイ・エスや国際交流NGO・ピースボート、(株)ダイヤモンド・ビッグ社から提供された世界一周チケットやピースボート映像スタッフ乗船権、ユーレイルグローバルパスを利用し、世界を一周しながらさらなる取材活動を行うことにしているという。

[上智大学]

JICAと連携協定を締結

国際協力に関する戦略的協力合意書を締結

合意書に署名する滝澤正・上智大学長(左)と緒方貞子・JICA理事長(右)



上智大学は2011年9月12日、国際協力機構（JICA）と国際協力に関する戦略的協力合意書を締結した。

2013年に創立100周年を迎えた上智大学は、記念事業「地球規模の課題解決に向けた21世紀型教育・研究国際連携プロジェクト」の一環として2009年より国際機関との連携を模索しており、これまでも人材育成支援無償（JDS）で留学生を受け入れるなどしている。

同日開かれた署名式では、滝澤正・同大学長が「JICAとの合意書締結は、「国際貢献」と「社会貢献」という大

学の方針にも合致する」と話した上で、「上智大学で長年教鞭を取ってきた緒方理事長率いるJICAとの連携成立を喜ばしく思う」と述べた。これを受け、緒方貞子JICA理事長も「上智大学にはJICAにとっても関心のある分野の学生が多い」「特に、中東情勢に関し深い知見を有している」などと述べた上で、「国際関係の中にあるのは人の思考であり、出発点は知。すぐ役立つことだけでなくその背景にある専門的な知識この連携によりJICAとしても学ぶところは大きい」との期待を表した。

さらに、高祖敏明・上智学院理事長は「上智大学の掲げる、世界を視野に入れた貧困、環境、教育、生き方に関する教育は、いずれもJICA事業と密接にかかわる」と期待を寄せ、早瀬隆昌・JICA国内事業部長も「国際協力への理解と参加を国民から一層いただくためにもこうした連携協定の意義は大きい」と述べた。

合意書の締結を受け、両者はJICA研修員の大学受け入れや調査団への教職員派遣、学生のインターン受け入れ、施設の相互利用などを積極的に進める。